

はたらき人

沖繩信徒聖書学校
沖繩聖書神学校

沖繩県那覇市久米町
2の11 (〒900)
事務局
聖書学校
(電) 09893(7)8988
神学校
(電) 09889(7)6970

三月十七日(日)午前三時より沖繩福音会館において、卒業式が行なわれた。定刻に七十余名が集まり、南星バプテリスト教会牧師、眞壁朝貞先生の司式によって始められた。校長は卒業生を前に、神の為に生命をかける者となるようにとの姿勢を語り、卒業生のために毎日祈りつづけているとの励ましを述べた。その後、卒業証書が一人々に手渡された。祝詞をもって卒業式を終った後、なごやかにお茶の会が催された。

卒業生は、沖繩中央教会出身の稲福正一氏、沖繩恩龍基督教会出身の桃原俊政氏と那覇バプテリスト教会出身の坂実雄氏、の三名であった。彼らは、神学校における全課程を無事終了され、卒業されたことになったのである。

その日(卒業式)、卒業生の一入が、「伝道者として巣立って行くが、欠けを感じる」と述べていた。しかし、入学の時の召しは、在学の期間中に吟味され、卒業にあたって、今一度問い直されるという事は、当然のことである。そこで問い直すことがあっても、決しておかしくはないのである。一人の信仰者として、礼拝生活を守り、主の召しを今一度問い直そうとしておられるようである。筆者は、牧師として、約三十年近くを過してきたが、その間に、何度も能力の不足を経験してきた。絶望的になったことが、幾度かあった。

このような時、いつも立ち直らせてくれたものは、神の恵みであった。もしも、自らの能力や適性を点検していたならば、おそらく筆者は、今ごろはいなかったことだろう。

神学校のもつ大事な要素の一つは、信仰の訓練および敬虔さを修める所ではないかと思う。すなわ

沖繩聖書神学校

第一回卒業生をおくって

校長 渡真利文三

卒業によせて

桃原 俊政

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせて下さるのです(ピリピ二章十三節)」

この聖句は、私を献身へと導き、今日も私を支えてくれるみ言葉です。神の救いを充分に知らず、信仰というこゝろについて理解してい

たつもりでいたが、実際、本質的な意味(心の理解)で神を知らな

かった時、主は、人の罪を死を通して教えて下さいました。

ある偉大な伝道者は言います。救霊への情熱は「地獄のさま」を見ることであるといふ。

意義揚々と日々を過していた私に、主は南部の病院で、罪の悲惨さというものを見せて下さいました。霊安室の遺体や、医師から慰を投げられた患者の家に帰るさまを通して、また、ユタの霊安室の側での祈りなどを通して生命について考えさせ、又、人の罪について教えて下さいました。

気とは、肉体的、精神的、霊的に縛られていること」だと。この束縛から主は自由にして下さいました。この自由を秘め隠すのではなく、主を知らない人々に宣べ伝えたいと願っています。四年間、神学校のために重荷を負って下さった兄弟の皆さんに心から感謝を申し上げます。ハレルヤ!

主の御導きのもとに

坂 英雄

「あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのはなく、神に従って自らなし、恥ずべき利得のためではなく、本心からそれをしなさい。」一ペテロ五:二

世界一小さな神学校です。でも此の神学校で育てられたというこ

とは、私にとって大きな誇りです。というのも、此の神学校が多くの方々の祈りと、とりなしによって建てられたからであり、又、多くの牧師先生の犠牲によって育まれたからです。パウロはピリピの人々に「あなたがたを思うたびごとくに、わたしの神に感謝する」と書き残していますが、私もこれらの方々を思うたびごとに、心から神の真実を覚え、感謝せざるを得ません。



卒業した今、皆さまの尊い犠牲に報いるためにも、ますます伝道に尽力したいと願っております。健全な福音の理解ができますようお祈り下さいませ。主の祝福が皆さまの上にあります。すようお祈りします。

聖書学校・神学校

行事日程

- 一月七日(火) 聖書学校三学期講義開始 (教授会あり)
- 三月十四日(金) 聖書学校三学期終了
- 三月十九日(火) 神学校入学試験
- 三月二十三日(日) 聖書学校第十一回卒業式

編集後記

△神学校第一回の卒業生は次の様に伝道に励んでおります。

桃原俊政師(恵泉キリスト教会) 開拓伝道、坂実雄師(玉城バプテリスト教会牧師、稲福正一師)開拓伝道準備中で、母教会にて奉仕されています。お祈り下さい。

沖繩聖書神学校募集

△受験資格

大学卒または同等の学力を有するもの。 沖繩信徒聖書学校卒業生

△入学願書受付 三月十四日 試験日 三月十七日

△申し込み 十八日午前十時

那覇市首里石嶺四一 基督恩龍教会 連天康正 電話 〇九八八 八七・三九五九

ち、神の恩恵をみつけ、悔い改めと服従を、日毎に更新していく人間の形式ではないだろうか。

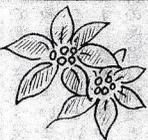
伝道を志す者は、つねに生涯教育を自己のうえに課していくことが大切である。しかし、それ以上に、悔い改めと服従、そして神の恵みから脱落しないように、毎日それを完成していくことが、大切である。

沖繩聖書神学校は、教義学、教理史および語学などに、多くの時間をあてている。ある方には批評をなさる方もあるかも知れない。しかし、筆者の体験から、この方面の学びの重要さは白明である。

現代神学の諸問題、あるいは、求道者・信徒を問わず、その簡単な問いに答える時にも、また生活の指針を求められる時にも、力になるのは、このような神学の学びである。

カルヴァンは、真の教会であるために、欠けてはならないものを次のように説明している。即ち、「イエス・キリストの教会を、正しく見わたるための目印として彼の聖なる福音が純粋に、かつ、忠実に説教され、告知され、聞かれ、そして守られているならば、その時、人間のうちに、常に存在する不完全さ、過ちが、あるうと

第七回 クリスマス感謝会



◎日 時 1985年12月1日(日) 午後4時～6時
 ◎ところ 沖繩折禰院(首里石嶺オリブ山病院構内)
 (プログラム) メッセージ 国吉 守先生
 ◎主 催 沖繩聖書神学校 あかし、劇、コーラス、学生一同、手作りの
 沖繩信徒聖書学校 お菓子、卒業生、初めての方もぜひおいで下さい。

「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いてよしと認められた人は、神を愛する者に約束された。いのちの冠を受けるからです」(ヤコブ一の一)。このことは、悲しみのどん底にあった私を救い出したものです。

私は小学校六年生の秋頃から視力が衰えたのですが、このことを神様からの罰だと考え、幼い頃から持ち続けていた信仰を捨ててしましました。なぜ私にこのような罰を与えたのかと考え、絶望と不安の中を歩いた私に、ある先輩が一つの道を示したのです。「人間は弱くから神を求めろのだ。自分さえしつかりしていれば神など必要ない」と。それを聞いて、「そうだ、そうなんだ」と思いました。ひたすら人に馬鹿にされたくないと思ひ、勉強に励みました。しかし自分の力で栄光がいかにちっぽけでチャチなものであるかを知らされました。人間が得た地位や名声や財産もすべて神をぬきにした人生も空しいと悟ったのです。宗

試練を乗り越えて

新城 信子



10月3日 聖書学校研究科開設式

教を否定し続けた私は十年ぶりに教会の門をくぐりました。

私は婚約破棄ということ、人から信用されないう試練に苦しみ悩みました。そのとき先きに記した言葉が与えられました。なぜ私だけがみじめな人生を歩まねばならないのかと考えていたことが、それは神様の大きなご計画であったのだと知ることができました。

今私に与えられた使命は障害者伝道であることを示されています。私と同じ弱さや障害を持っている方々へ福音を伝えたいのです。

(天久神の教会員)

沖繩信徒聖書学校 研究科開設される

聖書学校卒業生より「ぜひ研究科を開設してほしい」との強い要望があり、去る十月三日に開設式が行われました。

ここでは、聖書学校の学びをさらに深め、聖書研究や家庭集会等の奉仕に役に立つ学びをいたします。

現在十名の学生が次の講義を熱心に受講しています。

- ・モーセ五書(旧約研究)
- ・担当教師 折田政博師
- ・聖書論(組織神学)
- ・担当教師 国吉 守師
- ・お come 年度は次の科目を開講
- ・受講生を募集中です。
- △前期(四、九月)
- △前期(四、九月)
- 詩歌書(旧約研究) 当路由正師
- 神論(組織神学) 安里嗣昌師
- △後期(十一月)
- 歴史書(旧約研究) 新垣栄市師
- 人間論(組織神学) 古堅宗伸師
- △受講資格 聖書学校卒業生
- △受講料 一科目一五〇〇〇円
- △授業 毎週木曜日午後七時
- 三〇分
- △連絡先 新垣栄市(電話〇九八 九三七七八八)

もここに教会がある。」と。

神学校が、個々の教会に説教者を送り出すための備えの場所であることを思うと、真に主の教会として形成できるか否かの、少くともその一部は、神学校が背負っていることになる。

神学校の教師は、牧師は、伝道者を中心でなければならぬ。だから教師として、神学校にたずさわることには大きな責任がある。そのことのために、講師を固辞することもある。しかし神は、不完全な私たちに教会の業を委ねられるのである。

わたしたちの神学校はこうして日毎に、強められ、充実して行くのである。神学校の充実が、神という学問において充実されていくのである。

今日、筆者の祈りは、加盟教会および賛助団体が一致して、この神学校を愛し、協力を惜しまず、自分のもつわずかのもので、献げて下さることである。そして、伝道者になろうとする人びとを、教会の中から起こし、神学校に送っていただきたい。

それが神学校の現在をささえ、将来を造ることになるだろう。

神学校のために、多くの兄弟姉妹が祈っていると聞いて喜んで

いるが、それが、さらに広がり、全教会員の祈りとなるよう願っている。

証し

あれかこれか

小波津 芳子

五年前ある試練を通して教会に導かれ、苦しみの淵より救われたことは、口で云い表わすことのできない喜びでありました。主イエスキリストを受け入れることによってすっかり生きる方向が変わってしまったのです。「十字架の言は、滅びゆく者には愚かであるが、救いへあがる私達には、神の力である」(第一コリントの手紙一の一八)。滅びゆく者であった私を救いに入れて下さったことは、神様の深いあわれみであり、愛であり、不思議なる摂理に思えるのです。

今回の信徒聖書学校への入学は、まったく背後から押し出されて決心させられた感じです。以前から牧師先生より勧めがあったのですが決めかねていました。と云うのも聖書学校の授業のある金曜日は五年前から習い続けていたから墨絵のけいこ日に当っていたからです。指導を受けている先生が沖繩にあっては日本画壇の第一人者である

ことと、私の仕事が染色という関係上、この先生の許でいるという勉強したい気持ちが強かったのです。しかし、何回か聖書学校の話が出るにつれて私の心はとても痛むようになりまし。説教を通して伝道の使命が与えられていながら、いまだ自己中心であり、隣人のためにどれだけ重荷を負っているのかと考えると心がとても空しくなりました。「主人のこころを知りながら、それに従って用意もせず勤めもしなかった僕は、多くむち打たれるであろう」。この言葉が私の心に迫り、絵の学びも集中できない状態になり、聖書学校へ行くことが気になりだし、神様が「お前は絵の先生の弟子になりたいのか。キリストの弟子になりたいのか」と私に問いかけてくるのがはつきりわかりました。「どの僕でも、二人の主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである」(マタイ六の二四)。まさしく言葉の通りです。私は、今はいと素直に神様に従わなければあどとでも後悔するような気がしました。また私自身伝道するためには神の言葉と武器として身に付けたと思ひ、聖書学校で学ぶ

ことを決意いたしました。このことを通して、魂の救いのために自分が大事にしていたことも捨てなければならぬことも知りまし。誰でも私についてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、私に従ってきなさい」(マルコ八の三四)。

(宜野湾ナザレン教会々員)

一九八五年度
 沖繩信徒聖書学校学生募集

- △募集人員 二〇人
- △入学資格 新生の明確な自覚をもち、受洗後一年以上忠実な教会生活を送っている者。
- △修養年限 二年(毎週火曜日、金曜日午後七時三〇分～九時)
- △願書べ切 二月末日
- △入学試験 三月十日(月) 午後七時
- △科目 聖書・一般常識・小論文及び面接
- △申し込み 沖繩市宮里三七七 新垣栄市 電話七七八九八
- 将来信徒伝道者として、キリストと教会に仕えたいと願う者は、ぜひ本校に入学してください。